

精神看護学

- 1 精神看護学の考え方
- 2 精神看護学目的・目標
- 3 精神看護学の構成
- 4 精神看護学学習内容

1 精神看護学の考え方

WHOの精神の健康の定義には、「精神の健康は、ただ精神疾患ではないことをいうのではない。個人が自分自身の能力を認識し、日常の普通のストレスに対処でき、生産的かつ有意義に働き、自分のコミュニティに貢献しうる良好な状態のこと」とある。

精神看護学は、従来の精神疾患だけでなく、時代の流れや現代社会・人との関係の中で起きている いじめ、自殺、パーソナリティの問題や心身症、アデクション、虐待などの問題にも焦点をあて、幅広いこころの健康問題を捉える必要があると考える。病院の中でも精神科領域だけでなく、小児から老人までがその対象となりその人格形成・発達課題に深く関わる領域である。

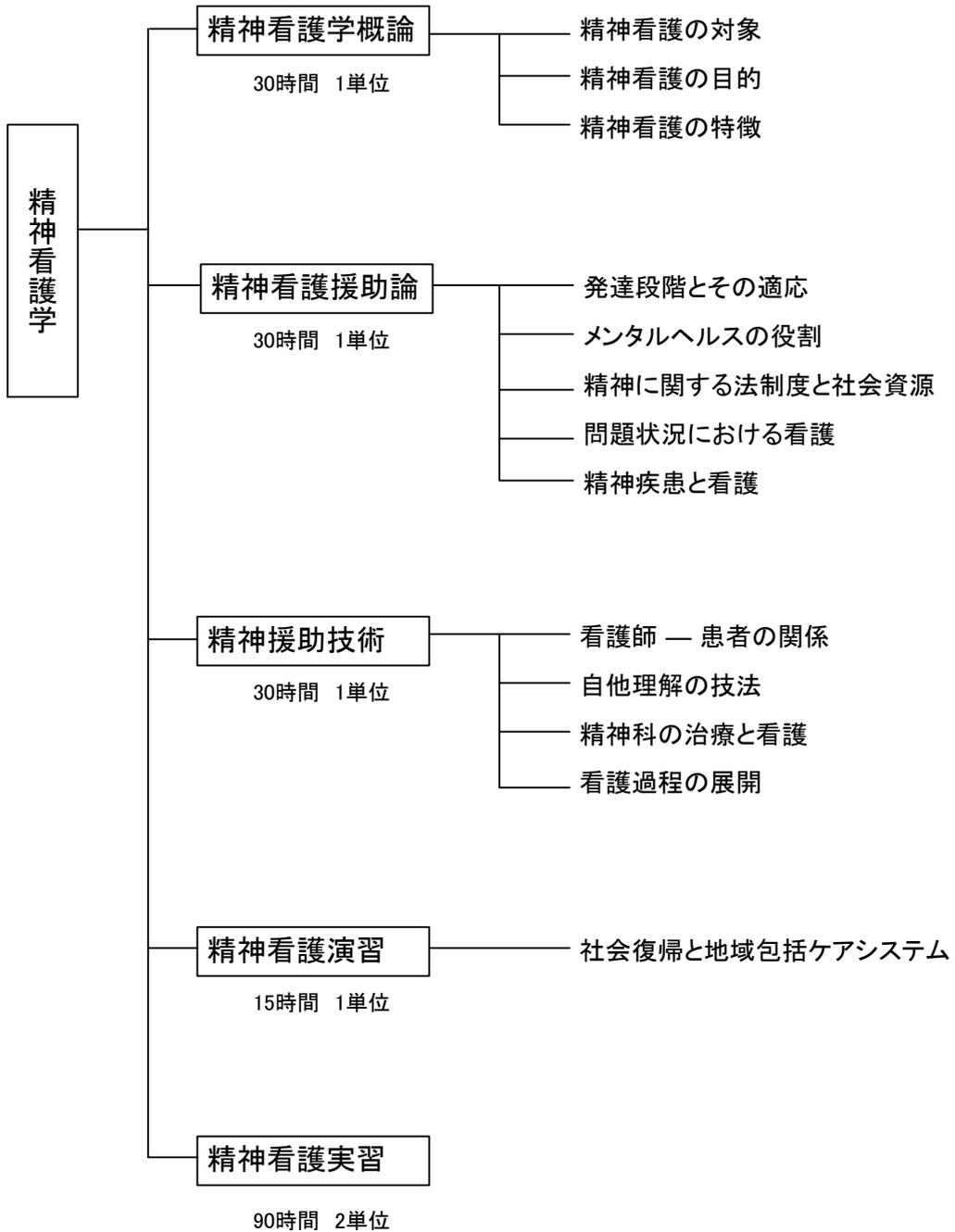
精神看護学では、ひとがひとに働きかけ、そこに関わる看護師が自分自身の感情・思考を知り、その上で有意義な患者—看護師関係を築き、対象に合わせその人らしさを発揮する生活を支えることを学ばせたい。更に日本の精神医療体制の現状をしり、各個人の精神障がいに関する認識をみつめ、そこに潜む根強い偏見に対して、問題意識を持ってノーマライゼーションについて考えさせたい。

精神看護学ではキーワードとして、「ノーマライゼーション」「権利擁護」「対人関係論」「家族システム論」「アデクション」を取り上げ取り組むこととした。

目的 乳幼児から高齢者に至るあらゆるライフ・サイクルの心に焦点をあて、そこから発生する心と身体の健康の問題を理解し、その人らしい生活を支援できる能力を養う。

- 目標
- 1 発達課題達成の仕方や環境との相互作用に起因する心の健康について理解する。
 - 2 精神の歴史から、精神障がい者の処遇・治療を学び、現在の問題点や今後のありかたについて考えることができる。
 - 3 精神保健・医療・福祉・法律を学び、地域の社会資源の活用と、そこで生活する当事者のサポート体制を理解する。
 - 4 ケアの基盤となる治療的人間関係と自他理解について考えることができる。
 - 5 精神の健康問題の表われ方と、生活への影響を学びそのケアの方法を理解する。
 - 6 精神障がい者との患者—看護師関係を築き、看護過程を展開することができる。
 - 7 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルスを理解する。

3 精神看護学構成



4 精神看護学学習内容

科目名 精神看護学概論 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 精神看護学
 開講期 1 年次 後期
 教員名 藤原 佳苗

授業概要：精神看護概論は、心の健康とその健康生活を支えるための方法及びシステムを学び、さらに心の健康問題が引き起こされた時の保健、医療、福祉の活用の仕方を学ぶ。
 また、精神障害者の処遇の歴史を概観し、現在精神障害者がおかれている状況を理解し、今後の社会参加のあり方について考える。これらの事を踏まえて、精神看護の対象のとなえかたと看護の基本的な考え方を学ぶ。

- 到達目標：1 心の健康の保持・増進について学ぶ
 2 精神障害者の処遇と医療、看護の歴史を学び現在の問題点と今後の展望について考えることができる。
 3 精神保健・医療・福祉の法律や制度を理解し、社会資源の活用について理解する。
 4 精神看護の対象及び看護の特徴を理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	精神看護学・精神医療における歴史を知る	講義
2	精神科医療・看護の背景の歴史を通して知る(世界偏)	講義
3	精神科医療・看護の背景の歴史を通して知る(日本偏)	講義
4	精神科に関係する法律を知る 精神保健福祉法 入院形態について	講義
5	健康とはどういう状態か WHO の定義をもとに	講義
6	精神看護の役割・対象・活動の場 精神看護の特徴	講義
7	精神症状 その種類と障害 意識障害	講義
8	精神症状 その種類と障害 神経発達障害	講義
9	精神症状 その種類と障害 神経発達障害 知覚の障害	講義
10	精神症状 その種類と障害 知覚の障害 見当識の障害 思考の障害	講義
11	精神症状 その種類と障害 思考障害 自我意識の障害	講義
12	精神症状 その種類と障害 看護師のメンタルヘルス	講義
13	映画「A beautiful mind」を通して 統合失調症の症状・治療を学ぶ 患者さんから見た幻	講義
14	想妄想の世界を知る	
15	まとめ 筆記試験	

評価方法 筆記試験

テキスト 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院)
 精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院)

参考書

科目名 精神看護援助論 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 精神看護学
 開講期 2 年次 前期
 教員名 菊池 尊 白倉 君江

授業概要：我が国の精神における制度や社会資源の現状と課題を知り、心の問題が日常生活にどのように影響しているのかをとらえ、その生活のしづらさを援助するための介入と、について学び、適切な対応や支援方法を習得する。

- 到達目標：1 こころの健康と維持を発達段階・場の違いから理解する。
 2 我が国の精神保健福祉制度の実際を学ぶ。
 3 主な精神症状におけるとらえ方と看護を理解する。
 4 主な精神疾患の接近について学ぶ。
 5 急性期から社会復帰、長期入院の患者の介入を学ぶ。
 6 精神の健康問題の表れ方と生活への影響を学ぶ

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	人間の心と諸活動 ①人格と気質②意識と認知機能 演習：エコグラム	講義
2	人間の心と諸活動 ③感情④学習と行動⑤知能⑥心の理論 心のしくみと人格の発達 ①エリクソンの発達理論②精神分析と無意識の心理学	講義
3	心のしくみと人格の発達 ③ユング派の心理学④対象関係論 演習：ユングの連想実験	講義
4	心のしくみと人格の発達 ⑤愛着理論⑥コフートの自己心理学 演習：風景構成法	講義
5	ストレスと健康の危機 ①ストレス理論②ストレス対処③急性ストレス④危機理論 ⑤危機をめぐる新しい考え方 演習：ストレス自己診断 ハッスルスケール	講義 演習
6	精神療法Ⅰ ①精神療法とは②クライアント中心療法 演習：ロールプレイ「傾聴」	講義 演習
7	精神療法Ⅰ ③精神分析療法 精神療法Ⅱ ①行動療法②認知療法 演習：不合理な考え方調査票	講義 演習
8	主な精神症状に対する看護 不安 攻撃 自閉	講義
9	診察・検査および治療に伴う看護	講義
10	統合失調症患者の看護(急性期) 幻覚・妄想症状のある患者の看護	講義
11	統合失調症患者の看護(慢性期) 長期入院患者への関わり	講義
12	気分障害患者への看護	講義
13	アデクシオン患者への看護(アルコール依存) 神経症患者への看護(強迫障害)	講義
14	摂食障害患者への看護 パーソナリティ障害患者への看護	講義
15	筆記試験	

評価方法 筆記試験 100 点 (配点 50 点 50 点)

テキスト 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院)
 精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院)

科目名 精神援助技術 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 精神看護学
 開講期 2 年次 前期
 教員名 久保 房子

授業概要：精神障害者の持つ疾患からくる生活のしづらさに焦点をあて、そこで必要な看護技術を学ぶ。また精神における治療場面での患者—看護師関係の持ち方、治療的関わりを形成するための対人関係の技術を知る。またこれまでの知識を統合し看護事例を紙面上で看護過程を展開する。

- 到達目標：1 ケアの基盤となる治療的対人関係について理解する。
 2 場面の再構成を用いて自分の感情や思考を表現する方法を学ぶ。
 3 危機的状況における介入を理解する。
 4 紙面上の患者の看護過程を展開し、精神で必要な観察と介入を学ぶ。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	自分自身の発達の中での危機的状況 発達とは 各研究者の発達段階説精神保健における危機とは	講義
2	自他理解と感情 自我の構造 感情 フロイトのよる精神構造	講義
3	関係性をアセスメントする プロセスレコードと場面の再構成	講義
4	プロセスレコードの活用目的・方法	講義
5	精神におけるコミュニケーション 転移・逆転移 共感	講義
6	社会問題 いじめ 自殺問題 暴力	講義
7	社会問題 無断離院 心的外傷後およびストレス因関連障害	講義
8	リエゾン精神看護 リエゾン精神看護の目標 リエゾンナースの役割	講義
9	治療における関わり（薬物療法・行動療法・電気ショック療法・活動療法）	講義
10	看護過程 事例を用いて情報収集・アセスメント(統合失調症の事例)	演習
11	看護過程 事例を用いて情報収集・アセスメント(統合失調症の事例)	演習
12	看護過程 アセスメントから看護診断 問題抽出 介入	演習
13	看護過程 アセスメントから看護診断 問題抽出 介入	演習
14	看護過程まとめ プロセスレコード 社会問題	演習
15	筆記試験	

評価方法 授業態度

レポート提出

筆記試験

テキスト 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院)
 精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院)

科目名 精神看護演習 単位数 1単位 15時間
 科目区分名 精神看護学
 開講期 3年次 後期
 教員名 澤田 良子

授業概要：精神障害をもちながら社会で生活を送るための看護について考える。臨地実習での学びを活用し、精神を障害された人の理解を深め、精神の健康問題の表れかたと生活への影響を明らかにし、その人らしく生きるための社会資源と看護援助を考え、地域生活への移行支援について考える。

- 到達目標：1 実習で体験した事例を通して、疾病の病態・症状・治療・回復のプロセスを深め、表現することができる。
- 2 対象がその人らしく生きるために必要な支援について、根拠となる法律を基に社会資源について考えることができる。
- 3 精神保健福祉制度と病院から地域への継続、地域でのサポート、そこにおける看護活動を理解する。

演習計画

回数	授業内容	授業方法
1	精神看護学実習での学びの振り返り グループで事例を決定する	演習
2	グループワーク 疾患・病態生理・症状・治療・看護介入・日常生活	演習
3	グループワーク 地域移行支援・地域定着支援・社会資源・サービス・法律	演習
4	特別講義 「依存症の人に対する支援」	講義
5	特別講義 「精神障害のある人・認知症の人の地域移行支援」	講義
6	グループワーク 看護の役割・看護介入	演習
7	グループワーク発表	演習
8	まとめ	

評価方法 成果物 発表内容

テキスト 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院)

精神看護学 [2] 精神看護の展開 (医学書院)

参考書

精神看護学実習

実習目的

精神医療における看護の役割・機能および精神を障害された個人とその家族の理解を深め、精神の健康回復への援助を実践するために必要な基礎的能力を習得する。

実習目標

- 1) 心の健康問題をもつ患者および家族を理解する。
 - ①患者の心の世界、日常生活状況と生活行動を理解する。
 - ②患者—看護婦関係の成立過程を理解する。
- 2) 入院している患者および家族に個別的な看護が実施できる。
 - ①患者の全体像を把握することができる。
 - ②日常生活のセルフケア能力をアセスメントし、看護の必要性から実施・評価の看護過程を展開することができる。
- 3) 精神医療の特殊性と看護の役割が理解できる。
 - ①精神病院、病棟の機構、機能を理解する。
 - ②精神医療からみた患者のQOLが考えられる。
 - ③保健医療チームとの連携を看護の役割と合わせて考えられる。
- 4) 実習の体験を通して自分の感情や行動の傾向に気付き自己洞察することができる。
- 5) 対象の社会復帰の場を理解する。
- 6) 対象のセルフケア能力の広がりを理解する。